

J T U

埼玉高教組

ニュース

NO. 659

発行 埼玉高等学校教職員組合

〒330-0062

さいたま市浦和区仲町3-13-10

ヤギンタビル4F



くじら

教育復興に向けて支援の輪を広げよう!

TEL 048-823-4071

FAX 048-823-4072

Eメール saikojtu@maple.ocn.ne.jp

インクルーシブ教育への転換を ～普通学級で共に学び普通の社会で育つ～

国連から指摘された内容

何度もお伝えしてきているが、2022年9月9日、国連・障害者権利委員会は、日本政府の報告書審査(8月22, 23日)に基づく総括所見を公表した。教育に関わる総括所見の主な内容は以下の通りである。

- 特別支援教育の中止
- 予算を伴った国家行動計画の作成
- 全ての障害児に合理的配慮を
- 教職員にインクルーシブ教育研修、人権モデルに関する啓発を

参加していた文科省は、「障害を持っていても通常学級を選択する場合も増えている」と説明したが、権利委員会の委員からは以下のような手厳しい意見が出された。

★フェトゥッシ委員(イスラエル)

「文科省に対してですが、普通学校、あるいは特別な学校が選べるということなのですが、合理的配慮を普通学校で行うことができれば特別支援学校に行く必要はなくなるのではないかと。」

★ガミオ委員(メキシコ)

「子どもが通常学校に行くか特別学校に行くか選んではいけない。障害者権利条約は明確に特別教育を否定し、インクルーシブ教育を推進している」

人権に関わる問題である

インクルーシブ教育についての国連勧告は、今までも、こどもの権利条約に関わって受けており、今回が初めてではない。ここまで明確に指摘されて

いれば、反論の余地はないのではないかと。

埼玉高教組は、一貫してインクルーシブ教育を訴えてきたが、それは人権問題だからである。1961年に旧文部省が出した『我が国の特殊教育』という文書の第5章「精神薄弱児の教育」(精神薄弱児とは現在の知的障害児)には、「自分の家に精神薄弱児が生まれなかったということは非常にしあわせだったと思わなければならない、同時に、精神薄弱児を持つ家庭に対しては、だれかが背負わなければならない荷物を負担してくれたものだ」という態度で援助し、激励するのが好ましいことでしょう」とある。これは差別以外の何ものでもないだろう。我が国は、潔く方向転換をすべきではないか。

これからのみちすじは

総括所見で述べられているが、短・中・長期の計画が必要だろう。特別支援学校や特別支援学級を縮小していくと共に普通学級の整備を行い、予算や人員を充てていく。そうする中で、度々指摘される普通学級の過度な競争や受験の在り方などを問う必要がある。また、特別支援教育の障害の種別や程度で学校や学級を分けることも議論されるだろう。

今までの学校での営みを根本から再検討する必要がある。評価は相対評価か絶対評価か、教科書も、点字や図・写真を増やした物など3種類ほど用意する(実際に欧米では行われている)、時間割の在り方、などなど、今まで健常者中心で行ってきた普通教育が問われているのである。

JTU未来プロジェクト part2

学習会2日目(校種を超えた交流)

前号で「JTU未来プロジェクト」の1日目の内容について書かせていただきました。今回はその続きの2日目の内容について書かせていただきます。

2日目はグループワークが中心となった。1グループに小・中・高の教員を配置し、それぞれが感じている職場での課題を挙げた。「自宅学習(宿題)の問題」「ジェンダーフリーの問題」「基礎学力の問題」「ICTの問題」など多岐にわたる問題が提起された。当初は話題を一つに絞ることになっていたが、それぞれのテーマが興味深く一つに絞ることはできなかった。その中で特に盛り上がったのが「宿題の問題」であった。小中学校の先生方にとって、日々の宿題の添削業務の負担は相当なものようであり、できればなくなることを望んでいた。なくすことを望む一つの理由として、宿題の添削が子どもにどのような教育効果があるのか見えないからという意見があった。これに対し、高校教員から課題を出す癖が身に付いているので、大いに助かっていると意見が出された。実際、私も勤務校でその感覚がある生徒たちが多く、大いに助けられている。小中の先生方はそのような役立ち方をしているとは知らなかったよ

うで、大いに驚いていた。また、期限を守って提出するということは社会に出て必要なことを教えていることではないかという意見も出された。仕事をする上で期限を守ることは一番大事なことであり、宿題提出は納期教育をしている、などと半分冗談も交えながら議論が交わされた。宿題の意義は大いにある。ただ、だからといって業務負担と時間外労働を強いる宿題を今のままするべきではない。具体的な解決策こそ出なかったが、皆で答えを模索する良い時間を過ごせた。

オルグに挑戦

昼食を挟み、最後にオルグ(組合に勧誘すること)にチャレンジした。午前と同じようにグループに分かれ、勧誘するPR文を作成したので、それを最後に紹介したい。「組合に入ることはお守りを持つと同じようなこと。なんの効果があるかはわからないが、安心感を得ることができます。そして、本当に困った時は相談に必ず乗ってくれる、ありがたいものです。あなたも損をしないお守り、持ってみませんか。」

帰りは神保町をプラプラと散歩して、江戸川乱歩が通ったと言われる老舗天麩羅屋で天井を食した。なかなかの充実した休日であった。

くじら「採用試験対策講座②」のご案内

4月22日土曜日 13時30分から17時

ヤギシタビル4F 組合本部にて開催

埼玉高教組 TEL 048-823-4071 メール saikoitu@maple.ocn.ne.jp

第1回くじら会議

4月29日土曜日 13時から

与野本町コミュニティセンター

(JR埼京線 与野本町駅下車5分)